

定期作況報告

(平成 27 年 10 月 20 日現在)
上川農業試験場天北支場

I 気象概況

9 月下旬から 10 月中旬までの気象は以下のように推移した。

9 月下旬：平均最高気温が 19.2℃（対平年比+0.5℃）と平年並、平均最低気温は 11.1℃（+1.9℃）と平年より高かったため、平均気温は 14.7℃（+0.9℃）と平年よりやや高かった。降水量は 43.5mm（156%）と平年より多かった。日照時間は 52.0 時間（90%）と平年並であった。

10 月上旬：平均最高気温が 13.7℃（対平年比-0.6℃）、平均最低気温は 4.8℃（-0.8℃）と平年よりやや低く、平均気温は 9.2℃（-0.4℃）と平年並であった。降水量は 10.3mm（45%）と平年より少なかった。日照時間は 38.1 時間（72%）と平年よりやや短かった。

10 月中旬：平均最高気温が 19.5℃（対平年比-2.1℃）と平年より低く、平均最低気温は 12.2℃（-1.0℃）と平年よりやや低かったため、平均気温は 15.5℃（-1.7℃）と平年より低かった。降水量は 32.5mm（103%）と平年並であった。日照時間は 40.4 時間（93%）と平年並であった。

以上、この期間を要約すると平均気温の 3 旬の平均は 11.7℃（-0.4℃）と平年並であった。降水量の 3 旬の合計は 86.3mm（105%）と平年並であった。日照時間の 3 旬の合計は 130.5 時間（85%）と平年並であった。

4 月下旬から 10 月中旬の主気象要素の積算値は、平均気温は平年並、降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年並に推移している。

a. 季節表

月 旬	平均気温 (℃)			平均最高気温(℃)			平均最低気温(℃)			畑地温(10cm、℃)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9 月 下	14.7	13.8	0.9	19.2	18.7	0.5	11.1	9.2	1.9	15.3	14.0	1.3
上	11.2	12.8	△1.6	15.1	16.9	△1.8	7.7	7.6	0.1	11.3	12.3	△1.0
10 月 中	9.2	9.6	△0.4	13.7	14.3	△0.6	4.8	5.6	△0.8	9.4	10.7	△1.3
3 旬平均または合計	11.7	12.1	△0.4	16.0	16.6	△0.6	7.9	7.5	0.4	12.0	12.3	△0.3

月 旬	降水量 (mm)			降水日数 (日)			日照時間(h)			平均風速 (m/s)
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
9 月 下	43.5	27.9	15.6	5	5	0	52.0	57.5	△5.5	2.3
上	10.3	23.1	△12.8	6	4	2	38.1	53.0	△14.9	4.1
10 月 中	32.5	31.5	1.0	5	6	△1	40.4	43.6	△3.2	2.8
3 旬平均または合計	86.3	82.5	3.8	16	15	1	130.5	154.1	△23.6	3.1

注 1) 平均畑地温は上川農試天北支場のデータ、その他の観測値は浜頓別アメダスのデータ。

2) 平年値は前 10 か年の平均より上川農試天北支場作成。

3) 降水量、降水日数、日照時間の 3 旬平均欄は 3 旬の合計値。

4) △印は対平年値比減を示す。

b. 主要気象要素積算値（4 月 21 日～10 月 20 日）

	平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
本年	2509	405	799
平年	2567	512	902
比較	△58	△107	△103

Ⅱ 作 況

1. 採草型 チモシー（3番草）

作況：不良

事由：9月下旬は気温がやや高く、降水量が多く推移したが、前番草刈取り後の生育の遅延は回復せず、乾物収量の平年比は63%にとどまった。乾物率は平年より5.8ポイント高いが、病害及び葉部の枯死等の障害は発生していないことから、長期間の生育の遅延に起因するものと見られる。

以上より、目下の作況は不良である。

越冬前(10月20日)の草丈は平年より3cm低かった。

調査項目：

収穫期（月．日）			収穫期の草丈（cm）			10月20日の草丈（cm）		
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
10.7	10.9	△ 2	34	48	△ 14	13	16	△ 3

生草収量（kg/10a）			乾物率（％）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
384	812	△ 428	28.6	22.8	5.8	110	176	△ 66	63 %

注）平年値は前7か年のうち、平成20年（最豊年）及び平成25年（最凶年）を除いた5か年平均値。

2. 放牧型 ペレニアルライグラス（6番草）

作況：不良

事由：草丈は平年より5cm低く、乾物収量は平年比84%にとどまっており、乾物率が4ポイント高かった。チモシー同様、生育の遅延による収量の減少と乾物率の上昇が発生したと見られる。

以上より、目下の作況は不良である。

調査項目：

草 丈（cm）		
本年	平年	比較
25	30	△ 5

生草収量（kg/10a）			乾物率（％）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
386	564	△ 178	21.7	17.7	4.0	84	100	△ 16	84 %

注）平年値は前7か年のうち、平成20年（最豊年）及び平成25年（最凶年）を除いた5か年平均値。